

No. 250

あごら札幌 連絡先 細田
(011) 644-2927今月通信担当
K. S

《 今 月 の 内 容 》

命と向き合う

フィリピン・St. パルナバス・マタニティー・クリニック・・・1

本と暮らす (26) 「Be!」・・・2,3

紅茶の時間・・・4,5

ナマステ・・・6

DOKOMO (ちよっぴり)

見直しちゃった・・・7

情報・・・8

2003.12.15. 発行

通信購読料 1200円 (年間)

命と向き合う

フィリピン・St. パルナバス・マタニティー・クリニック

高橋 芳恵

10月27日から11月15日までフィリピンへ行って来た。今回は、ピナツポ火山の被災住民の再定住地区で、マタニティー・センターを開いているEさんを訪ねた。数年前から「貧しく、間違った知識で、母子が命を落としていく。正しい知識と、ちょっとした助けがあれば、みすみす失うことの無い命を慈しむ」思いで見ると見かねて立ち上がったのだろうと思う。しかし、善意だけで物事が動かないのは周知の通り。何度も何度も「エ～、まさか!!!」の連続で、彼女のガンバリがいままで続いてくれるのか???と心配しながら、彼女の発行している通信「ぶつぶつ」を読ませてもらっていた。あるとき、地主から『立ち退き』を迫られているのを知り、土地代のカンパを申し出た。そのときの彼女の返事が「土地は何とかします、一度、こちらに見に来てください」。私は心はずかしかった。一度の旅行を諦め、その渡航費を当てられまい、と気楽に考えていたのだ。そのときから、なるべく早く行こう、と思いつつ延び延びになっていた。気が重かったのだろうと思う。この年だ。楽しい、お気楽な旅行が好きだ(他の人から、何でそんな辛い一人旅をするの?と言われるようなこれまでの旅も一人の気楽さは何にも勝る)。

マタニティーセンターでは、日々、命と向き合うのだ。しかも、文化が違い、言葉も通じ無い。何もかも、あっ、間違った!ではすまされぬ!!!・・・わたしは、開き直った。わたしはEさんを見に行くのだ。わたしが、そこで、出来ることは?

1. 彼女の娘たち、4歳の樹ちゃん、6歳の梨々花ちゃんと遊ぶ。
2. あれば、彼女の愚痴を聞く。
3. マタニティーセンターで、この間、彼女の手となり足となる。
4. その他、言われたことをする。

これだけでいい。そして私は、重たい現実(病院に行くお金が無く、命の消えかけた人をどうすることも出来ない)と、赤ちゃんは、ケアさえ間違えなければ自然に安らかに生まれるという両極端を体験することとなった。

次回につづく

本と暮らす

小松 ともみ

(26) 「Be！」

発行：特定非営利活動法人ASK

発売：アスク・ヒューマンケア

(季刊・年間購読は直接の郵便振替か書店からの定期購読で

詳しくは TEL 03-3249-2551まで)

突然ですが、離婚することになりました。お互いにいろいろと問題があったのですが、一番大きかったのは「この年齢（二人とも44歳）になって、子どもを持つか持たないか」という選択で意見が分かれたのと、フェミニズムという生き方について連れ合いが「もうあなたのフェミニズムを支えるのがしんどくなった。20年間やった、解放してほしい」と言い出したことです。

今年6月に彼から「自分は浪費依存症みたいだ。この6月に連続買物発作みたくなってアマゾン（書籍のインターネット通販）に毎日注文をしていたら、クレジットカードの月間利用限度額70万を何度も超える注文を出してしまった。それで、職場にアマゾンの係から『この注文はカードの利用限度額を超えているのですが、どうしますか？』という問い合わせが何回も入ってきて、そのたびに注文を解約していた。そのうちに『俺って、いったい何やってるんだ?!』と浪費の問題に気がついたんだ。これが僕のひとつの底つきだよな？」とカミング・アウトされたときは、正直言って大ショックでした。これでも嗜癖～いろいろな依存症関係の病気～の専門家のつもりで仕事してきていたので。自分がものすごく強力なイネイブラー（依存症者を援助するつもりで、依存症者が病気の状態を続けることを助長させてしまう人を指す用語）の役割を「無自覚に」「20年間も」しつづけていた、という事実打ちのめされました。

振り返ってみれば、彼は、結婚当初から職場などでの対人関係がうまくいかないストレスをアルコールやパソコン・ゲームにのめりこむことや、私にほぼ毎日繰り返し繰り返し同じ内容の愚痴をこぼして怒りや自己否定の塊になることで、処理してきたのでした。アルコールについては、さすがに常習飲酒がビール1500ml/dayを超えそうになってきた時点で「専門医として言うけど、この呑み方を続けていたら、あなたは間違いなくアルコール依存症になってしまう。常習飲酒は止めてほしい」と話をして、彼もその直言は受け入れて、一ヶ月に1回くらい外食などで呑む程度にしたのです。そして、書籍などを大量に買う、浪費へと依存対象がシフトしていったのですが、おバカさんな私は「ああ、酒を止めてくれた」とすっかり安心しきっていたのでした。

私にも問題がありました。十数年前、彼が自分の話だけするとすぐ寝てしまう自己中心性を遺憾なく発揮していた時期、私は「私の話をちゃんと聴いてくれる相手」を彼以外に捜し求め、浮気遍歴をしていたのです。しかし、そういう関係はしょせん不毛で、長続きしませんでした。底をついた私は彼にSOSを出し、「1週間に1回でもいいから、私の相談も聴いてほしいの!」ときちんと自己主張して、彼に話を聴いてもらうようにつとめ、十年以上前から「浮気依存」を止めました。しかし、私が浮気をしていた事実の告白は彼をいたく傷つけてしまいました。

40代半ばという年齢は「自分の残りの人生をどうするか」を考える時期です。そし



て、彼は「自分が浪費依存症からかなり回復したら、養子縁組してでも子どもが欲しい。育てたい」と言い出し、私は「この年齢で、まだ二人とも抗うつ薬を飲んでようやく仕事している状態で、新たに子育てする体力・気力が残っていると思うの?無理よ」と否定しました。これが決定打となったようです。「あなたに『回復の一番大変な時期に私を利用して、あとはポイ捨てするの?』と言われるのがいやだ。僕はひとりで生活して、浪費依存症の回復への道を歩む。あなたには一緒に回復の道を歩んでほしいとは思わない」と言い残して、今年10月上旬に彼は私たちの家から出て行き、賃貸マンションで独り暮らしを始めました。それから2ヶ月、彼の離婚の決意があまりに固いので、私も「もう、これだけ心が離れているひとは、一緒に暮らそうとするのはムリなんだな」とあきらめた次第です。

この「Be!」という雑誌は、上記のようないきさつで協議離婚することになった私たちの共通の愛読書です。この雑誌には「依存症・家族・AC……回復とセルフケアの最新情報」というような副題が付いています。彼は浪費依存症、私は共依存症（「自分が必要とされる」必要にしがみつき、世話をやくことで相手を知らず知らずのうちに支配する病的行動を続ける依存症）です。雑誌発行元のASKの主要メンバーとは、私は十数年来の交流があります。

離婚してからも、私たちは依存症から回復する「戦友」としては、交流は続ける予定でいます。

紅茶の時間

谷 百合子



とうとう冬が来た。庭の冬囲いが済まないうちに、雪が積もって来た。手はばは、土に埋めておいたので、あはは暖かい日に荒縄で縛るだけ。今年はEMのぼかしと沢山、土にまいたので、来年が楽しみです。



猫ぼた会議

フッキーなどに、向こう三軒両どなり、猫女子近所である。猫体重やら、いたすらぶりやらとそれとなく自慢を合は猫談議の道のみ中で開始する。最近、楽局の猫が一個個、不才不明になった。すぐに特徴を書かした写真入りのビラが回された。無事に帰還。(本人が自力で帰った)



土曜に市民運動の仲間さんへ。知られざるヒューポイントに囲まれたステキなお家にお住まいで、ご馬車走りが大好き。上4膳据え膳でゆったり、休養させて頂いて帰る。週一の割合で、中山峠を走った。夏から秋に変化する色彩の中を走り抜けるのは最高！北海道に住んでいてよかった(みじみ思)。帰りは北湯沢のひなびた温泉につかり、農家直売のりんご、カボチャ、じゃがいも、大根、人参、玉ねぎ...etcと車につんで、札幌の友人と分ける。市価の半値で、但農薬ものが多いので、本州へ送るのもgood！私は、りんごのストック料理と沢山作った。じゃがいもは本州の友人へ。



アレン・ネリソンの本をよく元海兵隊員でベトナム参戦体験のある反戦兵士のアレン君の本を生じた。講談社から、1300円+税。アレン君は数回北海道に来た。我が家にも度宿泊した。甘ん入りの本をさっさと送って来たのには、感激した。タイトルもすごい。「ネリソンさん、あなたは人を殺しましたか？」というの。「戦争の本質は、今も昔も変わらない」というサブタイトルである。本の紹介を写真入りで、毎日掲載してもらった。彼の話は、何度も何度も聞いたのであるが、本を通じて、あらためて、彼の語っている内容の重さに打たれる。若い人たちともこの本を通じて、いろいろ語りあえる本である。私は、さうさの冊売った。まだまだ、この本の良さを伝えたい。

今、私たちが出来ることは？戦争、やらの声は上げない。黙って小泉支持者！
上野長、高橋知子に声を届けよう！大阪に次いで、苫小牧に次いで、無防備、非核宣言しよう！

自国の北のみと考へは...いけない！→自衛隊派遣！

小泉さん本気で言ってるの！

12月11日 茶言「自衛隊」 勝負その？

177派兵の国民説明と称して、小泉首相は憲法前文を持ち出し、九条を無視した。権力というものは、すごい事をやるものだ。どう啞然としか言えない。憲法解釈にうつつを抜かしてごめん食べてきた学者の責任と、中でカエリになっていても一テンキな日本国民の無責任、無関心か。177の人を殺しに行くのだ。アモにもおらず、抗議もせず、文句や不満を個人的に並べたてている人は、小泉批判をする資格がないのではないだろうか。

地方から憲法九条を具体化する

無防備、非核ネットワーク、大阪、苫小牧発足

無防備、非核ネット
(コソリカの地才版だ)

同会は、1999年に札幌で発足した。12月5日に、苫小牧でもスタートした。大阪は、既に、有権者の50分の1(約4万人)の受任者の署名集めしているというので、会の藤本さんと招いて、苫小牧で講演して頂いた。大阪のような大都市で、無防備地域宣言がなされたら、影響は大きい。苫小牧も大阪も基地や軍隊がないので、この国際条約宣言の条件は満たされている。このシネフ条約の第一追加議定書は159ヶ国である。国連加盟国の84%であるが、アメリカや日本は批准していない。国際法は、確かに弱い。しかし、地雷禁止条約や、ごう問禁止条約も、世界の1/40か、国家群を乗り越えて作ったのである。国際人道法や国際人権法も、私たち市民が育つ行かなければならないと思う。

憲法九条と無防備、非核条約と国際刑事裁判所を育ぼう！

12月20日(土)人間のくさりで自衛隊をなすためよう

なんと、北海道の自衛隊が177派兵として派遣される。沖縄戦で沖繩の人に次いで北海道の兵士が多くなった。(1万5千人)札幌市の上田文雄市長は派遣反対を表明した。雪解きの自衛隊協力でおおしとかけられているとの事。

先日、自衛官ホットラインの電話着した。12月1日にスタートしたのであるが、日41件の問い合わせや相談があった。妻や母親の不安の声が多い。

12月20日 陸上自衛隊北部方面総監部に来ね！

殺すな！殺されに行くな！





ナマステ

Part. VI 高橋 芳恵

ここカリンポンでは念願のヘナでの毛染めをしてもらった。日中は暖かいのだが、水シャワーでの洗髪は風邪の完治していない私にはきつかった。でも、なかなかイイ感じ。

先のフランス人、ジャックにまた会ってしまい、とうとう彼の住まいへ。もちろん何事も無く本当に気の良いナイス・ガイだった！ リコンファームをしていないのに、カルカッタのエアール・インディアの電話番号がわからない！ ジャックも付き合ってくれて、いろいろ聞いてくれたけど、わからなかった。ジャックはお寺にも詳しくて、チベット・仏教寺にも連れていってくれた。ブータンの国境付近まで行ける、と言ってくれたが時間が無かった。

とうとう、カリンポンを出る日。ホテルのオーナーはそこで扱っている絹のスカーフを小さな財布のようなものに入れプレゼントしてくれた。私は荷を軽くしたくない物をもってもらったけど、こんなこともうれしい。余裕をもって出たのでシグリにも早く着いた。ここからニュージャイハイグリまでリクシャに乗る。街中を程よい速度で走ってくれるので観光しているようなもの。駅に着くと、2Fにリタイアリングルームがあるので行って見たら・・・?? そこは、軍人専用だった。他に座るところと言うとレストランが一軒。わたしはそこで4時間、いろんな物を注文しつつ居座った。ここでも、折り紙が超人気。厨房のおじさん(お兄さん?)たちにも作ってあげて大喜びしてもらった。ちょっとしたエンターテイメントだ。列車は1時間遅れ、さらに、ホームで待つこと1時間。これがインドだ。

翌朝、カルカッタのシアルダー駅に着いた。ここには subway の表示があることを知っていたので地下鉄に乗ろうとしたが、何としても解らない！ 結論、subway は文字通り、他の道でアンダーパスのことだった。シアルダー駅発の地下鉄はなかったのだ！ 人に聞き聞きバスに乗り、チョーロンギー通り周辺まで行った。そこから、オートリクシャに乗って、いよいよバックパッカーで有名なサダムストリートへ。この日は土曜日でオフィス街は静まりかえっていた。目指したエアール・インディアのオフィスも閉まっていた。今度もダメもとで翌朝早くから、飛行場で待つしかないか！ 翌日は、本物の地下鉄・バスを乗り継いで到着。日本人顔の女の子に声をかける。韓国人大学生の彼女も、リコンファームしていないので、朝早くから待っている、とのこと。運良く、彼女も私も乗れた。その日のうちに成田行きに乗り継ぎたかったが、話を通じなかった。乗ってからわかったのだが、この飛行機はバンコク止まりで、最短コースでも、成田へは1泊必要だった。ここから、運が向いてきた！ 離陸してから日本人の男の子が乗っているのに気づき、話し掛けた。な、なんと「これからや」(第三世界ショップ)のゆかちゃん知り合いだという。

DOCOMO(ちょっぴり)見直しちゃった

T

最近、感動したCMが一つあります。NTTドコモのFOMAという携帯電話サービス(商品デビューの時は、宇多田ヒカルが大々的に使われていました)のCMです。

20歳前後の若い男の子が友人の女の子からの動画&音声つきメールを受け取って、見ています。その男の子はその女の子にコクッたらしくて、それに対する返事が届いたのでした。女の子は「〇〇くん、メールありがとう！〇〇くんの気持ちは嬉しい！私も〇〇くんのことが好き！」と、男の子にとってはサイコーな内容の返事をしてくれます。でも、その男の子はうかない顔です。そして、実は、彼は彼女からのメールをもう何度も見返していました。なぜなら、上のメールには続きがあって、「～私も〇〇くんのことが好き！でもね、私、自分のやりたいことがあるの！その夢を実現するために、△△(←海外の地名)に行かなくちゃいけないの！だから、これから△△に行くわ！それじゃあね！」で終わるのです。そして、その彼女の声を聞き終えた彼の頭上を、飛行機が大空に向かって飛び立っていきます。失意の中へたりこんでいる男の子。そのとき、飛行機を見送りながら彼がつぶやく声流れます。「俺も行っちゃおっかなあ～～～・・・」。

このCMは、女にとって好きになった男と一緒にすることが最高の幸せで、だから、男と自分の目標との二者択一を迫られたとき、前者を優先し男にツイていくことが女の採るべき道だ、とされた従来の固定観念をひっくり返してくれます。ここで女の子は、その男の子が好きではあるけど、それよりも自分の夢を実現する方を優先します。そしてそこには、従来描かれてきた、女がやむをえない事情で好きな男と離れなければならないときのオンナの悲哀や未練といったものが微塵もありません。彼女にとって、男と一緒にいることよりも自分のしたいことを選ぶというのは、お腹が空いたらご飯を食べるというのと同じくらい、ごく自然なことなのです。

一方男の子は、その女の子のことが好きなので、彼女について行こうかと考えます。この男の子にも多分自身の目標があるだろうと想像できますが、彼にとって、好きな女の子と一緒にいることがそれ以上に大事に思えるのです。そして、ここでも、男の子に特に気負いというようなものはありません。男たるもの自分の夢の方を優先すべきで、女の後をついて行くなんで男のコケンにかかわる、なんて発想がないのです。彼にしてみれば、好きな女と一緒にいようとすることがこれまた自然なことなのです。男の目標の実現のため女の方が折れること、そして男の都合に合わせて女がその居場所を移すことが当然とされていた従来の女と男の立場が、ここでは正反対になっています。

いまだに、テーブルで新聞を読んでいる夫にエプロン姿の妻がコーヒーを差し出す(他、咳き込む夫に風邪薬を差し出す妻の図も多いかな)なんてCMが横行している中、このCMは私にとって、今まで自分が見てきた中でいちばんかもと思うくらいの大ヒットでした。NTT ひいてはDOCOMOが嫌いですが(我が家の近くにエンパイアステートビルもどきの、友人がホテルと間違えたほどゴージャスなドコモのビルが建っていて、ふざけんなって感じです)、このCMはどんどん放映してほしいと思った私です。



Information

- ★ 12月20日(土) 戦争なんて認めない!市民運動大集合
「人間のくさりで自衛隊をつなぎとめよう」13:00集合(13:20スタート)
集合場所:山鼻みなみ公園(南27西12南西向き)
連絡先:011-252-6752(さっぽろ自由学校「遊」)
- ★ 12月23日(火) 14:00~16:00 さっぽろ自由学校「遊」
北海道の社会運動を聴くPART2「北大全共闘」
講師:野村俊幸 単発参加費:一般1,500円 学生1,000円
連絡先:011-252-6752(さっぽろ自由学校「遊」)
- ★ 1月21日(火) 13:00~15:30~18:30~(各回2時間) エルプラザ
「体験クラスへのご案内」Lengthen the Body in English (LBE)
~英語で伸びやかな体づくり~ **要予約** 《現在米国や英国で人気の「ピラテス」
(柔軟な強い体づくりを行い、体型や姿勢を改善する方法)の呼吸法を取り入れ
ながら、オーストラリアで始まった「ヨガラテス」(ヨガとピラテスの方法を取り
混ぜたもの)を、運動や英語が苦手な人にも合わせて、ゆっくりと簡単な英語
の指示を受けながら行います。》
予約申込先及び講師:小野わこ (Tel&Fax011-615-3699)
- ★ 1月27日(火) 18:30~20:30 さっぽろ自由学校「遊」
「ルッキング フォー フミコ」(VTR)を観て語る
ーウーマン・リブの時代ー 語り:熊谷みどり 佐藤幸子
単発参加費:一般1,500円 学生1,000円
連絡先:011-252-6752(さっぽろ自由学校「遊」)
- ★ 2月14日(土) 13:00~15:30 エルプラザ3階和室4
ー性教育学習会ー「保健室から見た10代の性」 参加費:500円
講師:鈴木加知子(中学校養護教諭) 主催:性教協いしかりサークル
連絡先:011-644-2927

あとがき

刃見庸さんの講演会のためにコンベンションセンターへ行ってきました。行列の最後尾に並び会場ではずっと前の席を確保することができほっとして演題を見ると(ノーベル賞学者の)「野依良治先生特別講演会」。急いで別の部屋の違う大学主催の会場へ……。

フォーラムの顔ぶれは豪華な割に、ピントが絞られていないような気がして「お金もかかっているだろうのにもったいないな」というのが全体的な感想でした。「グローバル時代にどう生きるか」という彼の演題も取ってつけたみたいで違和感がありましたが、講演が始まって、「あらゆる機会をとらえてイラク派兵に反対する個人としての彼の意思」を強く感じることができ大感激。日露戦争から約100年、あの時代に与謝野晶子や長谷川如是閑が残した足跡を思うにつけ改めて現状に危機感を持ちました。私は、ヒットラーの台頭を拱手傍観して見ていた第1次世界大戦の戦勝国の愚は認めるものの、今の状況は泥沼化したベトナム戦争のあのどうしようもなさに似ていると思います。皆さんは、何もいいことがなかったあの悲惨な戦争を憶えていますか?